

## 第13回 地域連携懇談会(急性期) 開催

8月4日18時より、高松協同病院3F会議室において、第13回地域連携懇談会(急性期)が開催されました。参加者は急性期病院より31名、高松協同病院より26名の合計57名。最初に植木副院長より挨拶と回復期リハ病棟の2015・2016年度の統計比較を発表。発症から入院までの日数や入院期間は、全国平均より長く課題であることと、一方で入院時の重症度やFIMへの効果は全国平均より高いことを報告。

歯科衛生士の発表では、歯科衛生士が2名病棟に配属され、歯科医師との連携の下、病棟スタッフと一緒に入院患者様のリハビリ療養計画に関わることによって、口腔や栄養状態の改善に結びつきリハビリ効果を高めていることなどが紹介されました。

病院間の個別ディスカッションの時間を後半に設けて行い、急性期病院と当院の連携について話し合いができました。日ごろの連携への感謝とともに、急性期病院からご紹介いただいた患者様の入院期間、退院先、FIMの効率や、患者様の退院時の状態がわかる生活機能指標(自立、独歩、付添い、介助などの段階を数値で表す)の報告を行いました。この初の試みは、ご紹介いただいた患者様が、回復期リハ病棟からの退院後生活をイメージできるとたいへん好評でした。ご担当だった患者様が「こんなに良くなっている」とお喜びの声を聞き取ることができ、私たちの病院の機能が発揮できている事を実感できる機会にもなりました。

急性期病院のみなさまからの、「相談するポイントは？」の質問に、リハビリテーションの目的がはっきりしていると入院判定しやすいこととともに、ご遠慮なく相談はなんでもしていただきたいと回答。当院からは、ご本人の病態はもちろん、退院後の生活を見据えて、食事、服薬、検査結果などの情報とともに、ご家族の支援、リハビリを行って実現したいご本人やご家族の希望など詳細な情報をご提供いただき入院判定を行っていますので、今後とも情報提供など無理なお願いへのご協力をお願いしました。

個別ディスカッションを実施したことで、より細かな病院機能の交流も出来ました。今後の連携も促進できる懇談会となりました。



## 核戦争防止国際医師会議に参加しました

9月4日～6日、イギリスのヨーク大学で開かれた核戦争防止国際医師会議（IPPNW）に個人的に参加してきました。「反核医師の会（核戦争に反対する医師の会）」が企画したツアーで、主に全国の保険医協会や民医連に所属する医師や歯科医師を中心に総勢30人程の参加でした。

IPPNWとは1980年に設立された核戦争を医療関係者の立場から防止する活動を行うための国際組織です。3日間の会議には全世界中から500名以上が参加し、核兵器問題以外にもテロ問題、銃の問題、難民、経済格差や宗教差別など、社会と生命・健康に関わる問題を幅広い立場で活発に議論し大変意義深いものでした。空港やイギリスでの滞在中には海外のバリアフリー化が進んでいることなども実感できました。これからは日本だけではなく、世界レベルで健康をキーワードに戦争や格差の無い社会を目指していくべきだと再認識しました。

院長 北原 孝夫



## 医療安全学習会開催

2017年9月4日～6日までの3日間、「医療ガスについて」をテーマに学習会を行いました。なるべくたくさん職員が参加できるように、3日間連続+昼の時間を設けたことで、111人と過去最高の参加人数になりました。

事象事例の紹介や、実際に酸素を含ませた綿に線香を近づけると大きな火が上がるのを見て、酸素の危険性や取扱いの注意点等を学習しました。

高松協同病院には酸素が必要な方の入院は少なく、徐々に酸素を扱った際にうっかりミスを出さないためにも、定期的な学習会が必要だと改めて感じました。

医療安全委員会



## 高松協同病院の口腔ケア

東西各病棟に歯科衛生士が配属され、1年がたちました。日々の病棟歯科衛生士の業務は、食事前、嚥下機能を促進するための嚥下体操、食後の口腔ケアの介助や指導、経鼻経管栄養や胃瘻の方の食前の口腔ケア、水曜・金曜日に訪問診療のため病棟にいられている生協へいわ歯科の診療支援、毎週行われている内科カンファレンスに参加し患者様の情報共有を行っています。他にも、入院時の合同評価・退院時のケアカンファレンス・嚥下回診への参加、スタッフへの口腔ケアの指導、口腔ケア物品の消毒などを行っています。口腔内に関わることを主に担っており、入院中の患者様の口腔管理を多職種と連携し行なっています。

その結果として……

- ①患者さん・ご家族・スタッフへ歯磨きの習慣化を定着させ、正しい口腔ケアの実施指導が行える。
- ②口腔ケアにより誤嚥性肺炎の予防、歯周治療により糖尿病の予防や数値の改善につながる。
- ③口腔ケアにより口腔内が清潔に保てるようになり、おいしく食べることに繋がる。
- ④退院時、ケアマネジャーや在宅サービスの方へ口腔環境維持の情報発信がしやすい。

……などがあげられます。

これからは、さらに地域の方々の口腔内の状況や情報を発信し、ケアの必要性を広げていこうと考えています。



## 訪問リハビリから通所リハビリへつながった事例紹介

今年3月、Aさんが当事業所で初めに関わることとなったのは訪問リハビリでした。

その当時は自宅内で杖をついてなんとか歩けていましたが、ふらつきが強く転倒リスクもありました。また足を引きずって歩くため移動したり家事をすることにも時間もかかり長距離は移動できませんでした。もともと外出もされていましたが、外へ出ていく意欲もない状態でした。なんとか自宅内の移動動作を安定させ、生活が安心して送れるよう在宅訓練を行っていく中でリハビリ意欲も上がり、自主トレーニングも進んでされるようになりました。気持ちの変化もみられ、「必要な運動を教えてくれる

から助かる。出来なかったことが出来るようになったのが嬉しい」と。訪問リハビリを初めて5ヶ月くらいから外出の意欲もみられ、半年後に体力強化と外出機会を作る目的で、訪問リハビリを卒業し

通所でのリハビリを行う流れとなりました。通所リハビリでも在宅では行えない機械を使ったマシントレーニングなども出来るため、満足されています。今後さらなる機能改善も見込まれます。「これからは通所リハビリも頑張りたい」と、半年前にはあまり見られなかった笑顔を見せてくれました。



訪問リハ 科長 中村 望

## 外来リハビリより

退院すると、リハビリの機会や活動量が激減します。外来リハビリでは、入院時獲得された機能の低下防止、退院後の問題や不安解決を目標に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がそれぞれの専門性を発揮し、リハビリを提供しています。また、最近では難病弛緩患者様へのリハビリにも力を入れていて、年に2回患者・家族会なども開催しています。入院生活と在宅生活の架け橋となり、自分らしい生活が送れるようみなさんと関わっていくリハビリサービスです。どうぞ宜しくお願いします。



## 病院受付

### 「サギソウ」

8月中旬から9月初旬まで、外来待合とリハビリ室の2か所に「サギソウ」が飾られました。どちらも外来リハビリ利用中の患者様がお待ちくださったものです。

間近で見るサギソウは、まるで青々とした水田を優雅に飛び回る本物のサギのようです。多くの来院者やリハビリ中の方が「まあ、サギソウやねえ」「真っ白できれいなあ」と足を止め、ご覧になっておられました。

花の旬は短く、今年はもう終了しましたが、訪れる方々の心を癒すサギソウは来年も飾られる予定です。お楽しみに。



## 病棟残暑祭り開催!!

2017年8月19日(出)高松協同病院の病棟レクリエーションとして病棟残暑祭りを行いました。毎年、ボランティアさんに協力してもらい、患者様が夏を感じてもらうため病棟でお祭りを開催しています。この日の昼食はバイキング形式。日ごろ食事量が少ない患者様も好きなものを食べられるので、たくさん召し上がっていました。昼食後は、スタッフが出店を開いて、お祭り気分を味わっていただきました。出店で楽しんだ後は、ボランティアさんによる三味線とフラダンスを觀賞していただき、最後は職員による盆踊りでお祭りを締めくくりました。



第15回高松協同病院  
**健康まつり**  
出あい ふれあい 支えあい  
～心をつなぐまちづくり～

- 各種イベント(予定):木太中学校プラスバンド  
和太鼓 バンド演奏・ダンス・阿波踊り 等
- キッズコーナー:ヨーヨー・おたのしみくじ 他
- 健康チェックコーナー:骨密度測定も予定(500円)
- 作品展コーナー ●バザーもあります

お楽しみ  
抽選会  
あります  
ポン菓子  
無料進呈

日時/2017年11月19日(日) 10:30~14:30

場所/高松協同病院 駐車場

※雨天の場合、屋内駐車場で行います。

※お車でお越しの場合、できるだけ乗り合わせてお越しください。

主催/  香川医療生活協同組合・高松協同病院 TEL 812-5331